

令和3年度 東京都内湾水生生物調査 9月成魚調査速報

●実施状況

令和3年9月30日に成魚調査を実施した。調査当日は小潮で、干潮が5時18分、満潮が14時55分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は1.4~2.6mであった。また、St.25とSt.22で赤潮が確認され、さらにその2地点では下層の溶存酸素量は2mg/L以下の貧酸素状態であった(千葉県水産総合研究センターの貧酸素水塊速報(9/28))においても、St.35、St.25、St.22、St.10の全地点を含む内湾北部全域で貧酸素水塊が発生していた)。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	9:54-10:30		10:52-11:20		11:43-12:08		12:20-12:50	
水深(m)	26.0		12.8		14.1		8.1	
天候	晴		晴		晴		晴	
気温(°C)	24.7		24.9		26.0		20.1	
風向/ 風速(m/sec)	NNE/2.2		NNE/1.2		静穏(CALM)		静穏(CALM)	
波浪(m)	0.1		0.1		0.1		0.1	
透明度(m)	2.6		1.5		1.4		1.6	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	23.5	20.7	23.9	21.5	25.8	21.6	25.0	22.1
塩分(-)	23.9	33.7	17.2	33.1	23.8	33.0	26.0	32.1
DO(mg/L)	16.6	4.3	17.6	0.0	19.9	0.1	16.7	2.3
DO飽和度(%)	224.4	58.8	231.5	0.1	279.6	1.9	235.3	31.4
pH(-)	8.7	8.1	8.7	7.9	9.0	7.8	8.7	7.8
水の臭気	カビ臭	カビ臭	カビ臭	カビ臭、 硫化水素臭	カビ臭	硫化水素臭	カビ臭	カビ臭
備考			下層で貧酸素状態(DO:2mg/L以下)が確認され、10m以深はほぼ無酸素状態であった。		下層で貧酸素状態が確認され、11.5m以深はほぼ無酸素状態であった。			

観測層:上層(0m)・下層(海底面上1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	出現せず	出現せず	出現せず	アカエイ(r)
魚類以外 (目立った種)	ハナギンチャク科(r) シャコ(r)	多毛類(+)	ホンビノスガイ(r) 多毛類(r)	ウスカラシオツガイ(r) アカガイ(r) ホンビノスガイ(r)
備考	ムラサキイガイ、ツキガイモドキ、タイラギ等の死殻が採取された。	トリガイ、サルボウ、モミジボラ等の死殻が採取された。	イヨスタレ、チヨノハナガイ、ゴイサギ等の死殻が採取された。	上記の他、サルボウが確認された。

注)表中の( )内の記号はたまかな個体数を表す。

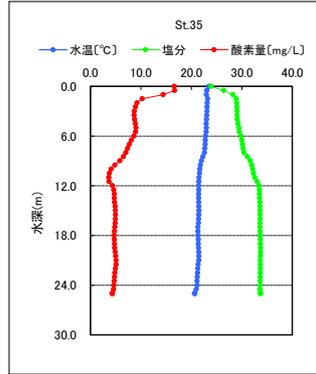
G:1000個体以上、m:100~1000個体未満、c:20~100個体未満、+:5~20個体未満、r:5個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料

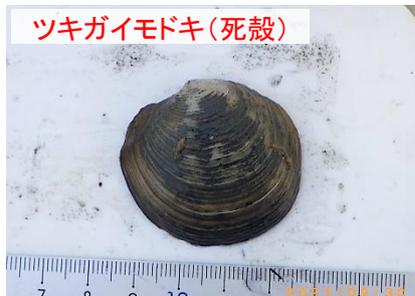


刺胞動物で、水中では鮮やかな触手を広げ美しい。ハナギンチャクの仲間は砂底に棲管を作り、刺激を受けると素早く潜って身を隠す。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



体長 15cm 程になる。内湾や内海の砂泥底、また河口の汽水域にも生息している。東京湾では水深 15~30m に生息し、甲殻類・軟体動物・多毛類・魚類をとらえて食べる。



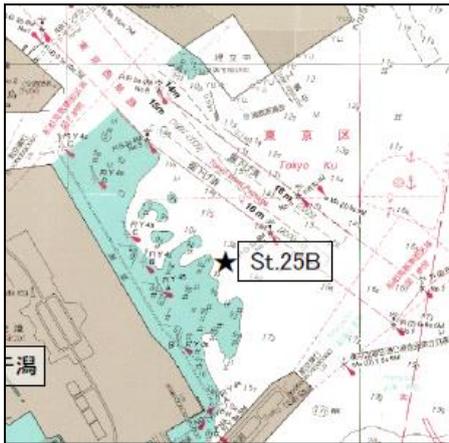
水深 25m 以深の砂泥底に生息する。



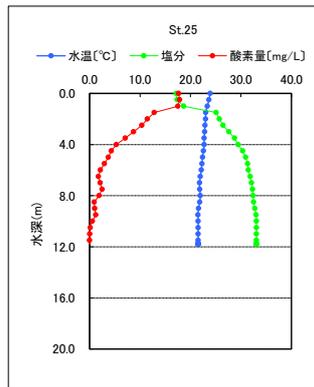
殻長 25cm を超える大型の二枚貝。尖った側を下にして海底に突き刺さったように生息している。東京湾の湾奥部では、春から秋にかけて発生する貧酸素水塊で死滅するため、殻長 10cm 程までしか成長できない。

調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況

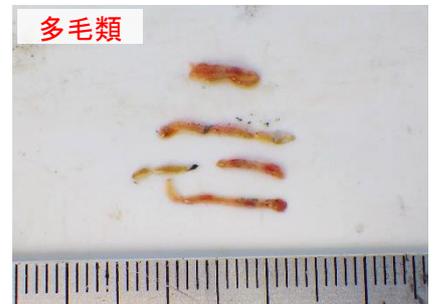


地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



日本では 800 種類以上が知られ、生活様式も食性も多様である。また、多毛類は鳥を始め、たくさんの生物の餌となっている。肉眼での識別が難しいため、多毛類（多毛綱）とした。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



ほぼ球形で、殻は薄く脆い。長い足が鳥の嘴に見えることが名前の由来とされる。内湾の砂泥底に生息し、湾奥部では夏季の貧酸素水塊の発生により、ほとんどが死亡する。



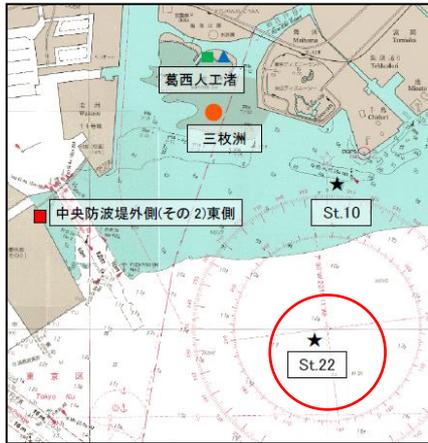
内湾の潮下帯から水深 20m までの砂泥底に生息している。殻の表面には 32 本ほどの太い縦筋が並んでいる。アカガイによく似るが、この殻表面の筋の本数で区別できる（アカガイ 42 本）。



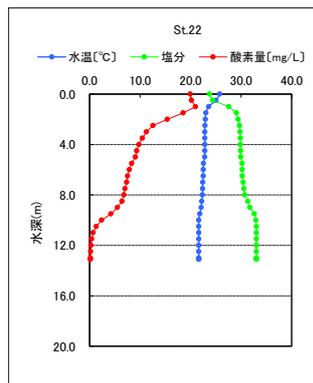
水深 10~100m の砂底に生息する。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況

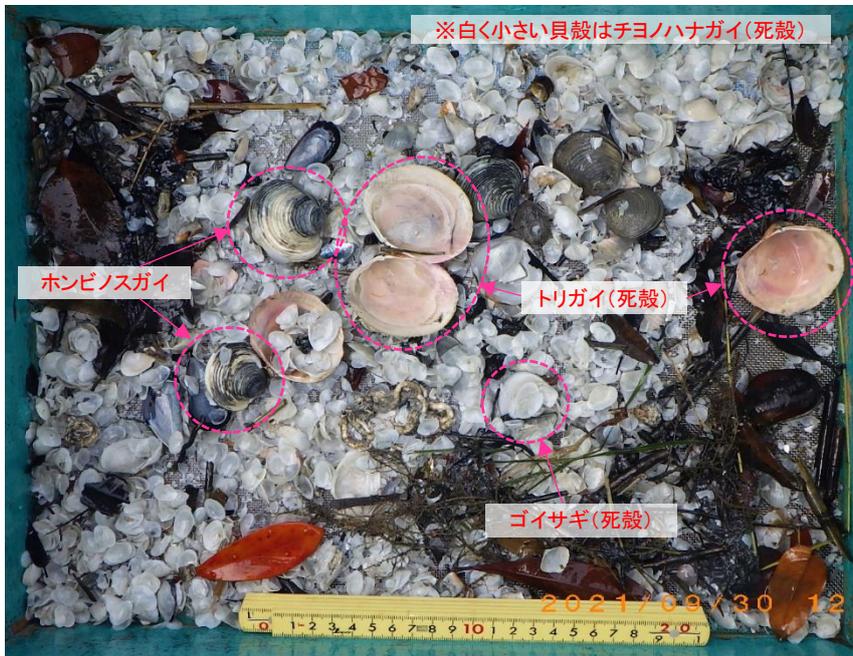


地点状況



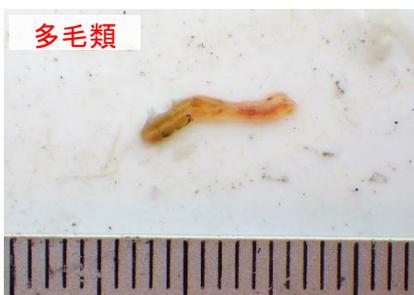
調査地点の周辺には、台風 16 号が迫る中、多数の船が避泊していた。

採取試料



北米原産の外来種で、殻長 10cm を超える大型種。貧酸素環境に耐性があり、東京湾を代表する二枚貝となっている。本来、殻は白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。

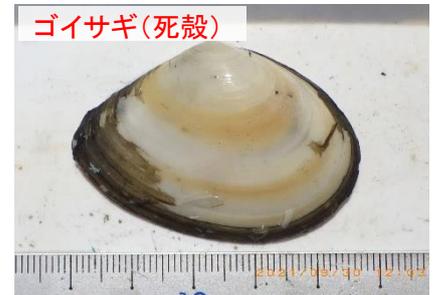
主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



※解説は St. 25 を参照。



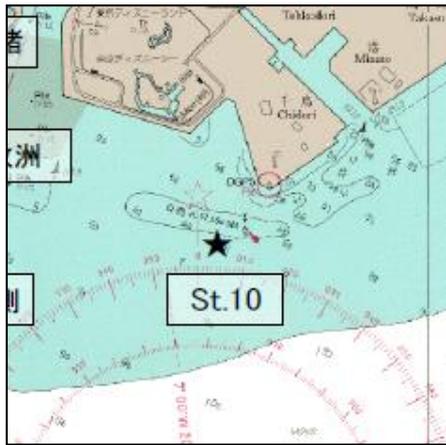
殻長 1.5cm 程の二枚貝。内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。貧酸素水塊でも酸素がある期間に短期的に発生することが知られている。今回、多量に死殻が採取された。



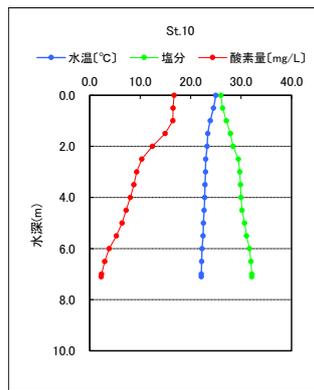
殻長 5cm 程度になる。水深 50m までの砂泥底に生息する。平べったい殻は白く光沢がある。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



東京湾で最も普通にみられるエイ。胸びれで海底をあおいで掘り起こし、隠れている甲殻類や多毛類等を食べる。尾部に毒針を持ち、刺されると死亡例もあり危険。本地点で採取されたアカエイは全長 65 cm、体重 1.2kg のオスであった。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



殻長 2cm 程度の卵型をした二枚貝。殻は薄く、もろい。外来種であるが、原産地は不明。



内湾の水深約 20m までの砂泥底に生息する。本地点で採取されたアカガイは稚貝であった。稚貝の時期は、足糸で海藻や基質等に付着して成長する。

その他出現種 (調査範囲外)



東京湾を代表する魚の一つで、内湾や河口域に生息する。主に小型プランクトンを捕食する。網を曳航しながら洗ったところ、100匹ほど入網した。